

事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 岐阜県可児郡御嵩町教育委員会
2. 研究主題 : 調査研究Ⅱ
※事業計画書「3. 研究主題」と同じ
3. 研究タイトル : 小規模校を存続させる場合の教育活動の高度化
※事業計画書「4. 研究タイトル」と同じ
4. 研究課題 : 「少人数のメリットを最大化させる方策」にかかわる5つの研究課題
①学力向上 ②体力向上 ③歯科保健活動 ④防災教育 ⑤保・小・中の連携
「少人数のデメリットを最小化させる方策」にかかわる3つの研究課題
①小規模特認校の推進 ②放課後子ども教室の設置・運営 ③スポーツ少年団の参加率向上
※事業計画書「5. 研究課題」と同じ
※必要に応じて、適宜、行を追加すること。
5. 事業の実績
 - (1) 調査研究のねらい

町教育委員会は、「21世紀御嵩町教育・夢プラン」の第三次改訂の中で、小規模特認校を推進する方針を出した。その背景には、上之郷地区の保護者・地域からの学校存続への要望に真摯に応えるとともに、少人数でのよさ（子ども達が家族的な温かい人間関係の中、自己有能感を味わいながら持てる力を遺憾無く発揮できるし、個に応じたきめ細やかな支援ができる。）を生かし、5つの研究課題（学校の教育課題）を追求する実践は、県内外で小規模校存続を検討している学校に参考となると考えられる。また、小規模校のデメリットを最小化するために、町教育委員会は児童数増加を願って小規模特認校制度を推進するとともに、児童の集団の多様性と社会性を涵養する機会を広げるために、放課後子ども教室の設置と魅力ある運営、スポーツ少年団の参加率向上（運動好きな子・社会性の涵養）に努める施策を講じ、研究を検証していきたい。

※要点をまとめ、簡潔に記載すること。

(2) 調査研究の実施状況（平成30年度）

「少人数のメリットを最大化させる方策」にかかわる5つの研究課題

① 学力向上 <算数>

《研究課題①学力向上の「算数」における本年度の具体的目標と経過について》

＜具体的目標＞
 ＊算数における「考え方」「技能」「知識・理解」の着実な定着
 CDT（H30.1実施）の結果、3つの観点のいずれかが全国と比べ、本人の正答が低かった児童（H29年度1年生～5年生の27名/64名）の割合を半減する取組を行う。

4月	・CDTの「考え方」「技能」「知識・理解」において全国平均正答率を一つでも下回る児童（新2年～新6年27名/64名）の実態把握を踏まえ、実践の累積について共通理解を図る。その際、単元テストの観点別到達率との関連に留意するとともに、特に「考え方」に関わる単位時間の指導について交流することを確認する。また、各観点別到達率が昨年度及び1学期の内で一つでも「80%」を下回る児童について「個票」を作成し個別指導を重ねることにした。 ・週1回の朝の計算スキル（10分）には、支援員・教務主任・教頭が各学年に入り指導することを確認する。 ・支援員と担任による指導では、児童の実態に応じて授業の初めに「振り返り学習（約5分）」を位置付けたり、授業後半の見届けで支援員が作成した学習プリントに基づいて学びを深めたりすることを確認する。
5月	ア. 実践交流会（提案：中学年） ・授業の中で、全体指導・個別指導でどのような手立てを行ったか資料提案する。 イ. 1年生「足し算・引き算（繰り上がり・繰り下がりのない）名人」の取組 ・実態把握と願う姿に基づく個別指導のあり方について職員の共通理解を図る。

6月	ア. 実践交流会（提案：低学年・中学年） ・授業の中で、全体指導・個別指導でどのような手立てを行ったか資料提案する。 イ. 1年生「足し算・引き算（繰り上がり・繰り下がりのない）名人」の取組 ウ. 第1回計算大会に向けての取組 ・実態把握と願う姿に基づく個別指導の在り方について職員の共通理解を図る。
7月	ア. 実践交流会（提案：高学年） ・授業の中で、全体指導・個別指導でどのような手立てを行ったか資料提案する。 イ. 1年生「足し算・引き算（繰り上がり・繰り下がりのない）名人」の取組 ・定着状況の把握及び今後の指導（夏休みの課題を含む）について共通理解を図る。 ウ. 第1回計算大会の考察と第2回計算大会に向けての取組 ・定着状況の把握及び願う姿に基づく今後の指導（夏休みの課題を含む）について共通理解を図る。
8月	ウ. 第2回計算大会の取組 ・定着状況の把握及び願う姿に基づく今後の指導について共通理解を図る。 エ. 全国学力状況調査の考察 ・全職員で課題について把握、共通理解し、2学期以降どのような手立てを打つのかを提案する。
9月	ア. 実践交流会（提案：中学年） ・授業の中で、全体指導・個別指導でどのような手立てを行ったか資料提案する。
10月	ア. 実践交流会（提案：低学年） ・授業の中で、全体指導・個別指導でどのような手立てを行ったか資料提案する。 イ. 1年生「足し算・引き算（繰り上がり・繰り下がりのある）」、2年生「かけ算のたつ人」の取組
11月	ア. 実践交流会（提案：高学年） ・授業の中で、全体指導・個別指導でどのような手立てを行ったか資料提案する。 イ. 1年生「足し算・引き算（繰り上がり・繰り下がりのある）」、2年生「かけ算のたつ人」の取組 ・定着状況の把握及び今後の指導について共通理解を図る。
12月	ア. 実践交流会（提案：中学年） ・授業の中で、全体指導・個別指導でどのような手立てを行ったか資料提案する。 ウ. 第3回計算大会の考察と第4回計算大会に向けての取組 ・定着状況の把握及び願う姿に基づく今度の指導（冬休みの課題を含む）について共通理解を図る。
1月	ア. 実践交流会（提案：低学年） ・授業の中で、全体指導・個別指導でどのような手立てを行ったか資料提案する。 イ. 2年生「かけ算のたつ人」の取組 ウ. 第4回計算大会の取組 ・定着状況の把握及び願う姿に基づく今後の指導について共通理解を図る。 エ. CDTテストの実施 ○学校だよりにて、学力向上の取組について保護者や地域に発信
2月	ア. 実践交流会（提案：高学年） ・授業の中で、全体指導・個別指導でどのような手立てを行ったか資料提案する。 エ. CDTテストの結果分析と考察 ・全職員で課題について把握、共通理解し、どのような手立てを打つのかを提案する。また、学級懇談会の折に保護者に対しても説明をする。 オ. 進級テストに向けて ・各学年の進級テスト問題についての共通理解と個々に願う姿を明らかにする。

3月	ア. 実践交流会（総括） ・算数の授業の観点から成果と課題を明らかにする。
	イ. 低学年の取組（総括） ・個々の定着状況と課題を明らかにする。
	ウ. 第5回計算大会の取組 ・個々の定着状況と課題を明らかにする。
	オ. 進級テストの実施 ・各取組や調査等の結果を踏まえ、「技能」「知識・理解」の定着状況の把握と今後の指導の方向を明らかにする。

① 学力向上 <国語>

《研究課題①学力向上の「国語」における本年度の具体的目標と経過について》

<具体的目標> ＊「書く力」の着実な定着 CDT（H30.1実施）の結果、3つの観点のいずれかが全国と比べ、本人の正答が低かった児童（H29年度1年生～5年生の29名/64名）の割合を半減する取組を行う。	
--	--

4月	・CDTの「書く能力」において全国平均正答率を下回る児童（新2年～新6年19名/64名）の実態把握を踏まえ、実践の累積について共通理解を図る。 <国－1> ア. 毎月、日記や作文のテーマと授業との関連がわかる「書く指導一覧」を作成し、交流することを確認する。 イ. 毎月、「書くこと」にかかわる国語の授業や他教科での実践を交流していくことを確認する。 ○上記の交流を通して、児童の日記や作文、新聞等の書き方や内容の変容を検証していく。その際、学習指導要領等を参考にして本校が作成した「文章を書く力を身に付けさせる日記・作文指導段階表」に基づいて定着と課題を明らかにしていく。
5月	ア. 日記や作文のテーマと国語の授業との関連を大切にした実践交流（高学年） イ. 「書くこと」にかかわる国語の授業や他教科での実践交流（中学年）
6月	ア. 日記や作文のテーマと国語の授業との関連を大切にした実践交流（中学年） イ. 「書くこと」にかかわる国語の授業や他教科での実践交流（高学年）
7月	ア. 日記や作文のテーマと国語の授業との関連を大切にした実践交流（低学年） イ. 「書くこと」にかかわる国語の授業や他教科での実践交流（低学年）
8月	○4月から7月までの児童の日記や作文の変容を「文を書く力を身に付けさせる日記・作文指導段階表」に基づいて検証し、定着と課題を明らかにしていく。 ○全国学力・学習状況調査の結果分析から見た2学期の書く指導についての研修 ア. 日記や作文のテーマと国語の授業の授業との関連を大切にした実践交流（低学年） イ. 「書くこと」にかかわる国語の授業や他教科での実践交流（低学年）
9月	ア. 夏休みの日記や作文のテーマと国語の授業との関連を大切にした実践交流（全学年） イ. 読書感想文の指導について実践交流（全学年）
10月	ア. 日記や作文のテーマと国語の授業との関連を大切にした実践交流（高学年） イ. 「書くこと」にかかわる国語の授業や他教科での実践交流（高学年）
11月	ア. 日記や作文のテーマと国語の授業との関連を大切にした実践交流（低学年） イ. 「書くこと」にかかわる国語の授業や他教科での実践交流（低学年） ・冬休みの学年課題の確認
12月	ア. 日記や作文のテーマと国語の授業との関連を大切にした実践交流（中学年） イ. 「書くこと」にかかわる国語の授業や他教科での実践交流（高学年）

1月	ア. 冬休みの日記や作文のテーマと国語の授業との関連を大切にした実践交流（全学年） イ. 「書くこと」にかかわる国語の授業や他教科での実践交流（高学年） ○C D Tテストの実施
2月	ア. 日記や作文のテーマと国語の授業との関連を大切にした実践交流（全学年） イ. 「書くこと」にかかわる国語の授業や他教科での実践交流（高学年） ○C D Tテストの結果分析と考察 ・全職員で課題について把握、共通理解し、どのような手立てを打つのかを提案する。また、学級懇談会の折に保護者に対しても説明をする。
3月	ア. 春休みの日記や作文のテーマと国語の授業との関連を大切にした実践交流（全学年） イ. 「書くこと」にかかわる国語の授業や他教科での実践交流（総括） ○4月から3月までの児童の日記や作文の変容から「書く指導一覧」を見直し、次年度に引き継ぐ。

② 体力向上

《研究課題②体力向上における本年度の具体的目標と経過について》

＜具体的目標＞ *総合評価の向上 スポーツテスト（H29.5実施）の総合評価がC～Eの児童（H29年度1年生～5年生の26名/64名）の記録が全国水準に近づく取組を行う。 *運動好きな子の育成 質問紙「体力に自信がもてない。」「家人からスポーツを推奨されない。」と回答する児童を半減する取組をする。	
4月	昨年度のスポーツテストの結果から、総合評価がC～Eの児童（新2年生～新6年生26名/64名）の記録が全国水準に近づく取組をすること、「体力に自信がもてない子」「土日等に運動に親しまない子」への支援の在り方を課題とすることを確認する。そのための手立てとして「体育の授業の補助運動の積み上げ」「各学級で重点においた授業実践交流」「学級遊び・家庭への啓発にかかわる事例交流」「全校遊びの取組」を柱とし、実践を積み上げていくことを共通理解する。 ア. 体育の授業の補助運動の積み上げ（1年生の取組）
5月	ア. 体育の授業の補助運動の積み上げ イ. 各学級で重点においた授業実践交流（高学年） ウ. 学級遊び・家庭への啓発にかかわる事例交流（中学年） エ. 全校遊びの取組 ○スポーツテストの実施と分析を業者に依頼。
6月	ア. 体育の授業の補助運動の積み上げ イ. 各学級で重点においた授業実践交流（低学年） ウ. 学級遊び・家庭への啓発にかかわる事例交流（高学年） エ. なかよし競技会の取組
7月	ア. 体育の授業の補助運動の積み上げ イ. 各学級で重点においた授業実践交流（中学年） ウ. 学級遊び・家庭への啓発にかかわる事例交流（低学年） エ. なかよし競技会の取組 ○スポーツテストの結果に基づいて夏休みの過ごし方について検討する。 （例：高学年は組立体操にかかわる技の練習を課題とする。低中学年は○○にかかわる運動を課題とする。親子スポーツカレンダーによる啓発等）

8月	○スポーツテストの結果を受けて、「総合評価が『C』～『E』の児童の変容」「学校課題の変容」等を整理する。 ○学級ごとに「スポーツテストの結果に基づく対応シート」を作成し、2学期からの「補助運動の在り方」や「学校・家庭生活での運動遊びの取組ませ方」について研修する。始業式に学級通信で保護者に啓発を行う。また、運動会種目や全校遊びの内容について協議する。 ○PTA主催で「親子で体力診断」を行い、保護者に体力向上の啓発をすると共に運動に興味をもたせる。
9月	ア. 体育の授業の補助運動の積み上げ ・課題である投擲について、トップアスリートの出前授業を実施し、ソフトボール投げの記録を伸ばすコツを指導する。 イ. 各学級で重点においた授業実践交流（高学年） ウ. 学級遊び・家庭への啓発にかかわる事例交流（中学年） エ. 運動会に向けた練習
10月	ア. 体育の授業の補助運動の積み上げ イ. 各学級で重点においた授業実践交流（高学年） ウ. 学級遊び・家庭への啓発にかかわる事例交流（中学年） エ. 第2回スポーツテストに向けての補助運動の内容検討
11月	ア. 体育の授業の補助運動の積み上げ イ. 各学級で重点においた授業実践交流（低学年） ウ. 学級遊び・家庭への啓発にかかわる事例交流（高学年） エ. 20分休み：駆け足・持久走の取組
12月	ア. 体育の授業の補助運動の積み上げ イ. 各学級で重点においた授業実践交流（中学年） ウ. 学級遊び・家庭への啓発にかかわる事例交流（低学年） エ. 第2回スポーツテストの取組 エ. なかよし競技会の取組 エ. 20分休み：縄跳び運動の取組 エ. 体力・運動能力についての質問紙調査
1月	ア. 体育の授業の補助運動の積み上げ イ. 各学級で重点においた授業実践交流（高学年） ウ. 学級遊び・家庭への啓発にかかわる事例交流（中学年） エ. 全校遊びの取組
2月	ア. 体育の授業の補助運動の積み上げ イ. 各学級で重点においた授業実践交流（低学年） ウ. 学級遊び・家庭への啓発にかかわる事例交流（高学年） エ. 全校遊びの取組

3月	ア. 体育の授業の補助運動の積み上げ
	イ. 各学級で重点においた授業実践交流（総括）
	ウ. 学級遊び・家庭への啓発にかかわる事例交流（総括）
	エ. 全校遊びの取組

③ 歯科保健活動

《研究課題③歯科保健活動における本年度の具体的目標と経過について》

＜具体的目標＞ <u>＊歯と口の健康を守る児童の育成</u> H30. 10に予定されている県歯科医師会主催の歯科保健優良校候補校に応募し、実地審査で小規模校の部で県一位を連続めざす取組をする。 ＊昨年に引き続き、学校歯科医からの助言を受けた3点に留意する。 ・栄養指導の充実と食育及び怪我の予防に関する委員会活動の定期的な取組 ・基礎体力と歯と食育を関連付けた定期的な講話の位置付け ・歯科保健の啓発を目的とした福祉施設との交流	
4月	H30. 10に予定されている県歯科医師会主催の歯科保健優良校候補校に応募し、実地審査で小規模校の部で連続県一位をめざすこと、全国1位も視野に入れることとして、歯と口の健康を守る児童を育てることを確認する。そのために、次の取組を日常的に大切にしていく。 ↓ ・毎日：給食後の歯みがきとフッ化物洗口 ・毎週：火曜日ジェルの日 ・毎月：はピカ（毎月1～2回朝に歯みがきのチェックを行い歯みがき名人を選ぶ）・はぶらし点検 ・隔月：ペアジェル（異学年との給食終了後に歯みがきを学び合う） ・PTA：母親委員との連携した取組（春休み・夏休み・冬休み） ・病気予防・栄養指導の充実と食育に関する委員会活動の定期的な取組 ・基礎体力と歯と食育を関連付けた定期的な講話の位置付け ↓ ＊昨年度に学校歯科医からの助言を受けた以下の3点の実践を大切にすること。 ・栄養指導の充実と食育及び怪我の予防に関する委員会活動の定期的な取組 ・基礎体力と歯と食育を関連付けた定期的な講話の位置付け ・歯科保健の啓発を目的とした福祉施設との交流 4月4日 歯科衛生士による「職員歯みがき研修」（全職員参加） 4月23日 「おためしはピカ」年間14回実施するはピカのお試しを全校で実施 4月26日 全校朝会で「歯の校長賞」表彰（各学年1人）
5月	ペアジェル 5月22日（2・5年）、8日（3・4年） 5月17日 学校歯科医、歯科衛生士による「歯型づくり」（6年生） 5月24日～全日本学校歯科保健優良校調査票 作成 5月28日 歯科衛生士による「親子ブラッシング」（1年生・保護者） ○保健委員会による「かみかみキャンペーン」の実施（昨年度より）5月21日～25日 5月28日 学校だよりにて、歯科保健の取組を地域に啓発
6月	ペアジェル 6月5日（1・6年） 6月3日 学校歯科医、歯科衛生士参加「全国小学生歯みがき大会」（5・6年生） 6月12日 歯科衛生士による「親子RDテスト」（5年生・保護者） 6月16日～「土日もパーフェクトみがきキャンペーン」（保健委員会） 6月18日 栄養教諭による「栄養指導」（1・2・3年） 6月19日 全日本学校歯科保健優良校調査票 提出 6月20日 歯科衛生士による「全校ブラッシング指導」（1～6年生） 6月27日 全校朝会「生活習慣について」（養教より講話） 6月28日 宿泊研修での「マリンはピカ」（5年生）
7月	ペアジェル 7月3日（3・4年） 10日（1・6年） 17日（2・5年） 7月3日 第1回福祉施設との交流会（保健委員会） 7月4日 歯・口の健康づくりポスター 提出（2・4・6年） 7月6日～岐阜県学校歯科保健優良校調査票 作成（実地審査に向けた取り組み） 7月18日～全国健康づくり推進校表彰調査票 作成 7月20日 「歯肉炎を予防しよう」カード配布（5・6年） 7月25日 岐阜県学校歯科保健優良校表彰（実地審査に向けた取り組み）調査票提出 ・夏休みの歯科保健に関する宿題 - 親子歯みがきカレンダー（PTA母親委員会で作成）、カラーテスト、歯と口の標語

8月	実地審査当日資料作成〈実地審査に向けた取り組み〉 8月2日 第1回学校保健安全委員会「歯と口の健康に関する提案」 8月21日 全日本学校歯科保健優良校候補校実地審査対象校の連絡
9月	9月5日 岐阜県学校歯科保健優良校候補校実地審査対象校の連絡 〈実地審査に向けて〉 9月15日 PTA母親委員会「親子歯みがきカレンダー」表彰（親子運動会） 9月18日～歯科衛生士による「ブラッシング方法」の復習 全日本歯科保健優良校に向けて各学級での取り組み 9月18日～朝の時間、給食後の歯の染め出し 給食後の歯みがき＋5分 土日ジェル（歯の染め出しジェルを各自持ち帰り染め出し、保護者がチェックする） 9月29日 全日本学校歯科保健優良校候補校実地審査 1年生：学級活動「歯・口の健康によいおやつの選び方」 歯科衛生士とTT 2年生・5年生：ペアジェル 3年生：あいうべ体操 4年生：防災歯みがき・ピカリンピック 6年生：朝の学級活動「歯肉炎予防」 ・学級活動「歯と全身の健康」 歯科衛生士とTT
10月	10月1日 保健委員会による歯と口の標語の表彰（全校朝会） 10月10日 岐阜県歯科保健優良校候補校実地審査 10月11日 全日本学校歯科保健優良校実地審査結果通知 10月12日～13日 4年防災キャンプ（朝夕の歯みがきを”防災歯みがき”で行う） 10月18日 歯科健診（2回目・全校） 10月23日 栄養教諭による「栄養指導」（4年） 10月29日 岐阜県学校歯科保健優良校実地審査結果通知
11月	11月5日 「朝ぼうさい」で「防災歯みがきについて」（養教より講話） 全校で給食後の歯みがきを”防災歯みがき”で行う （この月以降「ぼうさいかみのごう」の日は防災歯みがきを行う） 11月15日～ピカリンピック （低・中・高で誰が一番きれいに歯みがきができるか競う歯のオリンピック全5回） 11月18日 岐阜県学校歯科保健優良校表彰 表彰式 小規模校の部「県一位」 11月26日 栄養教諭による「栄養指導」（5年） 11月27日 学校だよりで「全国一位」「県一位」を地域に報告
12月	12月4日 歯科衛生士による「スペシャルピカリンピック」（4・5年生） 12月6～7日 全日本学校歯科保健優良校表彰 表彰式 「文部科学大臣賞」 12月10日 栄養教諭による「栄養指導」（6年） 12月14日 歯科衛生士による「第2回ブラッシング指導」（1～4年生） 12月20日 第2回学校保健安全委員会「歯科保健活動に関する提案」 ・冬休みの歯科保健に関する宿題 親子歯みがきカレンダー（PTA母親委員会作成）、カラーテスト
1月	1月9日 PTA母親委員会「親子歯みがきカレンダー」表彰者選考 1月25日 歯科衛生士による「ブラッシング指導」（5・6年生） 1月30日 PTA母親委員会「親子歯みがきカレンダー」表彰
2月	2月2日 全国健康づくり推進学校表彰 表彰式 「優良校」 2月7日 半日入学「5年生ブラッシング」（新1年生・5年生） （新1年生に染め出しをし、歯みがきの方法を教え、交流する） 2月12日 保健委員会による「福祉施設訪問」2回目 2月13日 「たばこの害（6年生）」保健師より 2月14日 「アルコールの害（6年生）」保健師より 2月16日～「土日もパーフェクトみがきキャンペーン」（保健委員会） 2月21日 学校保健安全委員会「食育に関する提案」 2月26日 「薬物乱用防止教室」（6年生）学校薬剤師より
3月	ペアジェル（1・6年）（2・5年）（3・4年） 3月6日 新1年生小学校体験 現1年生とともに授業・給食・歯みがきを体験する。 3月7日 学校歯科医、歯科衛生士による「卒業前歯の審査」（6年生） ○本年度の成果と課題の明確化及び来年度の取組について検討する。

④ 防災教育

≪研究課題④防災教育における本年度の具体的目標と経過について≫

④防災教育 *自分の命は自分で守る子の育成 ・予告なしに緊急地震速報を流した時に、慌てず・冷静に・真剣にシェイクアウトする児童の姿（登下校を含めた学校生活全般）を深化させる取組をする。 ・学級活動や保健学習で「もし〇〇だったらどうしよう？」という課題の意味を理解し、正しく判断し、最善の方法を考えて行動できるための取組をする。 ・減災力テストの平均点、児童（70.4点）・保護者（68.6点）を5点増やす。	
4月	* 4月3日：全校研究会 本校の防災教育で身に付けさせたい3つの力は「判断力・行動力・生命尊重」であること、それを身に付けさせる取組の柱として「ア. 命を守る学習『名称：ぼうさいかみのごう』（月1回）」と「イ. 学級活動と保健学習、道徳における生命尊重」と「ウ. 防災に関わる諸行事（主として4年生、町防災訓練、親子防災学習、職員研修等）の充実」があり、年間の活動計画に沿って実践を積み上げていくことを確認する。なお、意識の変容については、岐阜大学教授高木朗義&Do It Yourself 作成の「減災力テスト」において児童（70.4点）、保護者（68.6点）を5点増やすことを確認する。 ア. 4月13日 「避難訓練」（命を守る学習①）「名称：ぼうさいかみのごう」（校舎内でのシェイクアウト） イ. 4月13日 1年生：学活「火事や地震が起きたらどうするの」 ウ. 4月23日 4年生：社会「防災に関する調べ学習」（図書室）
5月	ア. 5月21日「不審者侵入対応訓練」（命を守る学習②）「名称：ぼうさいかみのごう」（合言葉「ぼうしやさん」、セーフティーファイブ：5つの命を守る約束） ア. 5月31日「緊急時引取訓練」（命を守る学習③）「名称：ぼうさいかみのごう」（雷・竜巻から命を守る、引取訓練の意味を学ぶ） イ. 5月28日 6年生：学活「地震が起きたらどうするの～家庭科室～」 ウ. 5月11日・25日 4年生：社会「防災に関する調べ学習」（図書室）
6月	イ. 6月28日 3年生：学活「落雷から身を守ろう」 6月29日 4年生：学活「地震が起きたらどうするの～理科室～」 6月28・29日 5年生：マリン研修「地震が起きたらどうするの～海岸編～」 ウ. 6月1日 救急救命講習・心肺蘇生法（4年生・職員） ウ. 6月11日 職員研修「初期避難所運営訓練」 ウ. 6月4日 4年生：総合「地震について」（パソコン室） ウ. 6月15日 4年生：社会見学：岐阜県広域防災センター ウ. 6月18日 4年生：防災センター見学振り返り ウ. 保護者・児童向けアンケート「減災力テスト」実施 * 6月19日 第1回防災教育推進委員会
7月	ア. 7月12日（命を守る学習④）「名称：ぼうさい かみのごう」（自然災害における水の危険性を知る。） イ. 7月9日 2年生：学活「地震が起きたらどうするの～図書室～」（研究授業） イ. 7月12日 4～6年生「着衣泳」実施 ウ. 7月20日 学校だよりにて、防災学習について紹介 * 7月5日 町防災訓練計画会議・・・大雨警報のため中止 * 7月19日 第1回町防災訓練計画会議

8月	* 1 学期の取組において、月 1 回実施の防災学習「名称：ぼうさいかみのごう」と各学年が実施した学級活動での児童の変容及び成果と課題を明らかにする。 * 今年度も御嵩町防災訓練の日の午後に「親子防災学習」を位置づけるため、その内容について吟味・検討する。 * 8 月 1 日 第 2 回町防災訓練計画会議 * 8 月 1 0 日 第 3 回町防災訓練計画会議 * 8 月 2 0 日 職員研修 H U G (講師 岩井 防災士) ・御嵩町防災訓練に向けた職員研修 上之郷地区：「豪雨による土砂災害を想定した避難所運営」 「体育館」でなく「各教室」を避難所として運営することを想定した研修 * 8 月 2 3 日 第 2 回防災教育推進委員会 ・御嵩町防災訓練への本校の児童・職員の参加の仕方について共通理解を図る。 ・ 1 0 月に予定されている 4 年生の防災キャンプへの推進委員会の協力について確認する。 * 減災力テスト分析・考察
9月	ウ. 9 月 2 日 (命を守る学習⑤)「名称：ぼうさいかみのごう」 午前：御嵩町防災訓練・・・全校児童参加 午後：親子防災学習・・・講師 村岡 治道(岐阜大学 特任准教授) * 9 月 2 8 日 第 3 回防災教育推進委員会
10月	ア. 1 0 月 1 2 日 (命を守る学習⑥+⑦)「名称：ぼうさいかみのごう」(濃尾地震) ウ. 1 0 月 1 2 日・1 3 日 4 年生防災キャンプ 「避難所生活体験」「非常食」「パーティション作り」 「防災講演会」 演題 「上之郷の自然災害」げんさい未来塾 塾生 「災害から身を守るために」御嵩町役場 総務防災課 イ. 1 0 月 1 5 日 御嵩町教育委員学校訪問 4 年生学活「防災歯みがきを広めよう」 イ. 1 0 月 2 4 日 3 年生 学活「地震が起きたらどうするの～図工室～」 ウ. 1 0 月 2 9 日 学校だよりにて、防災学習について紹介
11月	ア. 1 1 月 5 日 (命を守る学習⑧)「名称：ぼうさいかみのごう」(津波防災の日) イ. 1 1 月 5 日 教育警察委員会学校訪問 4 年生学活「防災歯みがきを広めよう」参観 防災教育の取組状況報告 イ. 1 1 月 1 9 日 「少子化・人口減少社会に対応した活力ある 学校教育推進事業」調査研究報告会 4 年生 学活「地震が起きたらどうするの～図工室～」 1 年生 学活「地震が起きたらどうするの～休み時間～」 イ. 1 1 月 2 1 日 授業参観・学級懇談会 イ. 1 1 月 3 0 日 4 年生 学活「防災歯みがきを広めよう～お家の人～」 5 年生 保健「きずの手当」
12月	イ. 1 2 月 5 日 全校研究会 5 年生 保健「きずの手当(発展)」 ア. 1 2 月 7 日 (命を守る学習⑨)「名称：ぼうさいかみのごう」 (避難訓練・初期消火訓練) イ. 1 2 月 2 0 日 2 年生学活「地震が起きたらどうするの～多目的室～」 ウ. 保護者・児童向けアンケート「減災力テスト」実施 ウ. 各学級へ「防災かるた」を配布
1月	* 減災力テスト分析・考察 ア. 1 月 1 7 日 (命を守る学習⑩)「名称：ぼうさいかみのごう」 (阪神・淡路大震災から学ぶ) ウ. 高学年へ「防災カードゲーム」を配布
2月	ア. 2 月 1 4 日 (命を守る学習⑪)「名称：ぼうさいかみのごう」(防災ダック) イ. 2 月 2 2 日 4 年生学活「地震が起きたらどうするの～直下型地震～」 イ. 2 月 2 5 日 6 年生学活「災害から学び、広げよう」 イ. 2 月 2 6 日 5 年生学活「地震が起きたらどうするの～音楽室～」 ウ. 2 月 1 4 日 羽根山集会(全校集会)で、全校で集めた募金を赤十字に贈呈

3月	ア. 3月 8日 (命を守る学習⑫) 「名称：ぼうさいかみのごう」Final (東日本大震災から学ぶ) * 1年間の取組において、月1回実施の訓練「名称：ぼうさいかみのごう」と各学年が実施した学級活動での児童の変容及び成果と課題を明らかにする。各活動が、児童や保護者の防災意識の向上につながる取組であったかを検証し、次年度の計画を立案する。
----	--

⑤ 保・小・中連携

《研究課題⑤保・小・中連携における本年度の具体的な目標と経過について》

＜具体的な目標＞ <u>*保・小の連携</u> アプローチ・スタートカリキュラムを幼児期までに育てほしい「10の姿」に基づいて見なおすとともに、共通課題に基づく実践交流の積み上げと園児を巻き込んだ意図的・系統的な生活単元を実践し小1プロブレムを解消する取組をする。 <u>*小・中の連携</u> ・学力（国語・算数）と体力について、小中9カ年を見据えた系統的な指導と検証を行う。 ・音楽に関わる児童の意識調査を継続的に実施し、指導改善することを通して、興味関心や意欲の向上を図っていく。 ・楽譜を読む力を身に付けると共に、パート練習を子ども同士で行うことを大切に活動継続的に行うことで児童が声を重ねて合唱を楽しむ姿をめざす。 <u>*英語にかかわる目標</u> ・新学習指導要領では、学校段階間の学びを接続するため、小中高一貫した5つの領域別の目標を設定している。高学年から文字や定型文を「読むこと」「書くこと」が加わり、指導の系統性の確保をする。	
4月	*保・小・中の連携においては、下記の2点を具体的な目標とするが、それを支える諸会議や交流事業についても月毎に記載する。 <u>*ア. 保・小の連携</u> アプローチ・スタートカリキュラムを幼児期までに育てほしい「10の姿」に基づいて見なおすとともに、共通課題に基づく実践交流の積み上げと園児を巻き込んだ意図的・系統的な生活単元を実践し小1プロブレムを解消する取組をする。 <u>*イ. 小・中の連携</u> ・学力（国語・算数）と体力について、小中9カ年を見据えた系統的な指導と検証を行う。 ・音楽に関わる児童の意識調査を継続的に実施し、指導改善することを通して、興味関心や意欲の向上を図っていく。 ・楽譜を読む力を身に付けると共に、パート練習を子ども同士で行うことを大切に活動継続的に行うことで児童が声を重ねて合唱を楽しむ姿をめざす。 ・英語について、新学習指導要領では、学校段階間の学びを接続するため、小中高一貫した5つの領域別の目標を設定している。高学年から文字や定型文を「読むこと」「書くこと」が加わり、指導の系統性の確保することが求められている。中学校の英語教員が6年生の授業に入ることで、スムーズな接続を図る。 * 4月19日 保育園の先生による授業参観 * 4月26日 第1回上之郷小中学校職員合同交流会 ・学習・生活において9か年を見通して身に付けさせたい内容及び学力・体力に関わる傾倒的な指導とその検証について共通理解を図る。
5月	<u>*ア. 保・小の連携</u> ・5月22日 第1回幼保小長会で保育園との年間連携計画と重点事項を共通理解する。 ・4・5月分のスタートカリキュラムを整理する。 ○その①「育ちの姿10項目」に照らして、「保・小で願う姿」と「アプローチ・スタートカリキュラム」を捉えなおす。 <u>*イ. 小・中の連携</u> ○中学校の音楽専科による小学校6年生のT2指導。 ・楽譜の読み方指導（基礎①） ○中学校の英語専科による小学校6年生のT3指導。 ・教科書を利用した指導 ○過去3年分の全国学力調査と体力テストの整理 ・5月16日 一昨年から始まった中学校の茶摘み体験に6年生が参加する。 <u>*ア・イ 保・小・中連携</u> ・5月31日「緊急時引取訓練」（保・小・中合同で実施）

6月	<u>*ア. 保・小の連携</u> ・ 6月8日 第1回学校運営協議会に保育園職員が参加。 ・ 6月21日 1年生生活科：小単元「みんなのこうえんであそぼう」 保育園の園庭を公園に見立てて園児と交流をしながら楽しく遊ぶ。 ○その②「育ちの姿10項目」に照らして、「保・小で願う姿」と「アプローチ・スタートカリキュラム」を捉えなおす。 <u>*イ. 小・中の連携</u> ○中学校の音楽専科による小学校6年生のT2指導。 ・ 楽譜の読み方指導（基礎②） ○中学校の英語専科による小学校6年生のT3指導。 ・ 聞く力を育てるために、なるべくall Englishでの授業を心がけ、身振り手振りでも意味が理解できるように工夫した指導 ○全国学力調査（国・算）の自校採点の分析・交流 <u>*ア・イ 保・小・中連携</u> ・ 6月19日 第1回上之郷小学校区防災教育推進委員会（保育園・中学校職員参加）
7月	<u>*ア. 保・小の連携</u> ・ 7月6日 園主催の「縁日ごっこ」に放課後児童クラブが参加し、毎年小学校職員が参観している。今年も参加予定だったが、雨のため中止。 ・ 7月23日 小学校職員保育体験 ・ 運動遊びにかかわる授業の参観・給食後の「歯みがき指導」の研修に参加 ○その③「育ちの姿10項目」に照らして、「保・小で願う姿」と「アプローチ・スタートカリキュラム」を捉えなおす。 <u>*イ. 小・中の連携</u> ○中学校の音楽専科による小学校6年生のT2指導。 ・ 楽譜の読み方指導（基礎③） ○中学校の英語専科による小学校6年生のT3指導。 ・ 文字を読む力をつけるために、絵と文字と音をリンクさせて理解させる指導 ○スポーツテストの分析と交流
8月	<u>*ア. 保・小の連携</u> ・ 8月2日 第1回学校保健安全委員会に保育園・中学校職員が参加。 ○その④「育ちの姿10項目」に照らして、「保・小で願う姿」と「アプローチ・スタートカリキュラム」を捉えなおす。 <u>*イ. 小・中の連携</u> ・ 8月22日 第2回上之郷小中交流会 「学習習慣部会」と「生活習慣部会」より提案・共通理解を行う。 特に、9カ年の学力の定着と体力の記録の傾向を理解し、今後の指導の在り方を検討する。 ・ 音楽担当者、及び英語担当者と1学期の成果と課題及び児童の意識調査の結果を踏まえ、実践の積上げを確認する。 <u>*ア・イ 保・小・中連携</u> ・ 8月23日 第2回上之郷小学校区防災教育推進委員会（保育園・中学校職員参加）
9月	<u>*ア. 保・小の連携</u> ・ 9月2日 町防災訓練に保育園の職員がスタッフとして参加 ・ 9月23日 小学校運動会に保育園・幼稚園の園児（5園の年長児）参加。 ・ 9月27日 第2回学校運営協議会に保育園職員が参加。 <u>*イ. 小・中の連携</u> ・ 9月2日 町防災訓練に中学校職員がスタッフとして参加。また、中学生の多くが自主的に参加し、主体的に活動した。 ・ 9月18日 中学校の体育大会に教頭参加。応援合戦の講評を行う。 ・ 中学校音楽専科による小学校6年生のT2指導 <u>*ア・イ 保・小・中連携</u> ・ 9月28日 第3回上之郷小学校区防災教育推進委員会（保育園・中学校職員参加）
10月	<u>*ア. 保・小の連携</u> ・ 就学指導に関わる情報交換 <u>*イ. 小・中の連携</u> ・ 中学校音楽専科による小学校6年生のT2指導 ・ 小学校の技術専科の職員による中学校1年生のT2指導

11月	*ア. 保・小の連携 ・ 11月 1日 1年生生活科：小単元「はっぱやみであそぼう」 上之郷保育園の園児を招待して、一緒に秋見つけをする活動を行う。 ・ 11月19日 文科省指定「少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業」調査研究報告会に保育園職員参加 ・ 11月30日 1・2年生生活科「みんなであそぼう」「生活科まつり」 園児を招待して、秋のおもちゃを使って遊ぶ。 *イ. 小・中の連携 ・ 11月19日 文科省指定「少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業」調査研究報告会兼 小中交流会に中学校職員が全員参加 ・ 11月14日～20日 小中連携ノーメディアデー実施 ・ 11月17日 小中合同PTA資源回収実施 ・ 中学校音楽専科による小学校6年生のT2指導（パート練習を大切にした音楽指導） ・ 小学校の技術専科の職員による中学校1年生のT2指導
12月	*ア. 保・小の連携 ・ 12月20日 第2回学校保健安全委員会に保育園長が参加 ・ 来年度入学児童についての情報交流 *イ. 小・中の連携 ・ 12月15日 中学校合唱祭に、教頭及び6年担任が参観 ・ 12月20日 第2回学校保健安全委員会に中学校職員が参加 ・ 中学校音楽専科による小学校6年生のT2指導（パート練習を大切にした音楽指導） ・ 小学校の技術専科の職員による中学校1年生のT2指導
1月	*ア. 保・小の連携 ・ 1月30日 第3回学校運営協議会に保育園職員参加 ・ 来年度入学児童についての情報交流 *イ. 小・中の連携 ・ 1月31日 中学校半日入学 ・ 中学校音楽専科による小学校6年生のT2指導（パート練習を大切にした音楽指導） ・ 小学校の技術専科の職員による中学校1年生のT2指導 ・ 来年度入学児童についての情報交換
2月	*ア. 保・小の連携 ・ 2月7日 小学校半日入学（5年生と園児が歯みがきや遊びで交流） ・ 「育ちの姿10項目」に照らして見直した「保・小で願う姿」と「アプローチ・スタートカリキュラム」について加除訂正する内容を確認する。 ・ 来年度入学児童についての情報交流 *イ. 小・中の連携 ・ 2月21日 第3回学校保健安全委員会に中学校職員が参加 ・ 2月15日～21日 小中連携ノーメディアデー実施 ・ 中学校音楽専科による小学校6年生のT2指導（パート練習を大切にした音楽指導） ・ 小学校の技術専科の職員による中学校1年生のT2指導 ・ 来年度入学児童についての情報交換
3月	*ア. 保・小の連携 ・ 「育ちの姿10項目」に照らして見直した「保・小で願う姿」と「アプローチ・スタートカリキュラム」について加除訂正する内容を確認する。 ・ 来年度入学児童についての情報交流 *イ. 小・中の連携 ・ 中学校音楽専科による小学校6年生のT2指導（パート練習を大切にした音楽指導） ・ 小学校の技術専科の職員による中学校1年生のT2指導 ・ 来年度入学児童についての情報交換

「少人数のデメリットを最小化させる方策」にかかわる3つの研究課題

⑥ 小規模特認校・放課後子ども教室・スポ少への参加促進

《研究課題⑥小規模特認校・放課後子ども教室・スポ少への参加促進における本年度の具体的目標と経過について》

＜小規模特認校の推進における具体的目標＞

***小規模特認校の理解・啓発と児童の募集及び円滑な就学手続きの在り方**

- ・ 平成31年度、他の校区3名程度が制度を利用して通学することをめざす。
- ・ 乳幼児学級の学校見学会を実施し、本校の理解・啓発を行う。

＜放課後子ども教室の設置・運営における具体的目標＞

- ・ 詩吟や盆踊り、英語活動等の学びを地域で披露する姿
- ・ 「地域に学ぶ学校・地域を愛する学校・地域に働きかける学校」を推進する運営を行う。

＜スポーツ少年団の参加率向上における具体的目標＞

＊運動好きな子の育成と社会性の涵養

- ・スポーツ少年団の加入率25%及び運動する子の割合を現状の56%以上にする。
- ・スポーツ交流会や各体験活動への参加率35%をめざす。

4月	＜小規模特認校の推進＞ ＊平成29年4月より上之郷小学校が小規模特認制度を利用した学校であることを様々な場所で理解・啓発することを確認する。具体的には、昨年開催した乳幼児学級の保護者を対象にした学校説明会を今年も実施する。 ○小規模特認校制度を利用して、平成31年度、他の校区から3名程度が通学することをめざすことを確認する。 ＜放課後子ども教室の設置・運営＞ ・詩吟や盆踊り、英語活動等の学びを地域で披露する姿をめざすこと、「地域に学ぶ学校・地域を愛する学校・地域に働きかける学校」を推進する運営を行うことを確認する。尚、昨年度は年間17回の活動で9団体＋町A L T が関わり述べ76人が協力した。本年度も月2回の教室開設と協力者を述べ70名程度とする。 ○公民館祭りの3・4年の発表は「詩吟」「英語の歌」「合唱か合奏」と3曲を確認する。 ○1～3年生を対象に「放課後子ども教室募集案内」を配布する。 ＜御嵩町スポーツ少年団への参加促進（運動好きな子の育成と社会性の涵養）＞ ・スポ少加入率25%をめざすとともに運動する子の割合を現状の56%以上にする、スポーツ交流会や各体験活動への参加率35%をめざすことを確認する。
5月	＜小規模特認校の推進＞ ・御嵩町乳幼児学級の担当者と連絡し、本校の訪問日時と内容を協議する。「学校開放日（学校説明会）」を設定する。 ・5月23日「学校開放日①（学校説明会）実施 対象：御嵩町乳幼児学級（伏見地区）」 ・保護者向け「学校見学会案内文書」の内容及び配布先と配布時期、見学会の日時と内容、面接の時期等学校と協議する。 ＜放課後子ども教室の設置・運営＞ ・5月15日 開所式 Aチーム「ベアリング教室」 Bチーム「英語教室」 ・5月29日 A・Bチーム合同「詩吟教室」 ＜御嵩町スポーツ少年団への参加促進（運動好きな子の育成と社会性の涵養）＞ みたけスポーツ・文化倶楽部と学校・教育委員会で本年度のスポーツ交流会・体験会の成果と課題を明らかにする。昨年に引き続き交流会への協力について御嵩町スポーツ少年団常任理事会で協議することを確認する。
6月	＜小規模特認校の推進＞ ・6月8日 第1回学校運営協議会 ○御嵩町乳幼児学級及び上之郷保育園保護者を対象とした「学校開放日（学校説明会）」について提案・協議する。 保育園が予定している未就学児を持つ保護者を対象にした「遊びの広場」を参観することを確認する。 ・6月13日「学校開放日②（学校説明会）実施 対象：御嵩町乳幼児学級（御嵩・上之郷地区）」 ・6月19日 第1回上之郷小学校校区防災推進会議 ・上之郷小学校では昨年作成した学校見学会用「学校紹介」の内容を更新する。 ＜放課後子ども教室の設置・運営＞ ・6月12日 Aチーム「英語教室」 Bチーム「フリスビー教室」 ・6月26日 A・Bチーム合同「盆踊り教室」 ＜御嵩町スポーツ少年団への参加促進（運動好きな子の育成と社会性の涵養）＞ ・御嵩町スポーツ少年団臨時理事会で昨年のように「スポ少主催のスポーツ交流会」にするのか「上之郷小学校主催のスポーツ交流会」にするのか、その場合に少年団として協力できるのかどうか協議する。 ・了承後、交流会の実施時期、回数についてスポーツ少年団で検討。
7月	＜小規模特認校の推進＞ ・教育委員会が作成した「学校見学会案内文書」の内容について学校と協議する。 ＜放課後子ども教室の設置・運営＞ ・7月10日 Aチーム「ハンドベル教室」 Bチーム「ベアリング教室」 ○7月28日 上之郷公民館主催「盆踊り」への児童の参加 ＜御嵩町スポーツ少年団への参加促進（運動好きな子の育成と社会性の涵養）＞ ・交流会の実施時期、回数についてスポーツ少年団で最終調整。
8月	＜小規模特認校の推進＞ ・8月23日 第2回上之郷小学校校区防災推進会議 ・「学校見学会案内文書」と「学校紹介」の内容について、学校と最終確認をする。 ＜放課後子ども教室の設置・運営＞ ・11月の公民館祭りで「詩吟」発表に向けて、指導者と担当者で9・10月の練習日時を協議する。 ＜御嵩町スポーツ少年団への参加促進（運動好きな子の育成と社会性の涵養）＞ ・保護者向け「交流会」参加案内文書の内容確認及び配布準備。

9月	<小規模特認校の推進> ・「学校見学案内文書」と「学校紹介」の内容について、学校と最終確認をする。 ・9月27日、学校運営協議会にて少子化に歯止めをかけるために町をあげての宅地造成計画などの働きかけをする必要があると確認。 ・9月28日 第3回上之郷小学校区防災教育推進委員会 <放課後子ども教室の設置・運営> ・9月11日 Aチーム「英語教室」 Bチーム「詩吟教室」 ・11月の公民館祭りでの「詩吟」発表に向けて、指導者と担当で発表内容を確認する。 <御嵩町スポーツ少年団への参加促進（運動好きな子の育成と社会性の涵養）> ・保護者向け「交流会」参加案内文書の配布と参加の啓発。
10月	<小規模特認校の推進> ・8月23日 第2回上之郷小学校区防災推進会議 ・「学校見学案内文書」と「学校紹介」の内容について、学校と最終確認をする。 <放課後子ども教室の設置・運営> ・10月 9日 Aチーム「太鼓教室」 Bチーム「英語教室」 ・10月23日 Aチーム「スポーツ教室」 Bチーム「ハンドベル教室」 ・11月の公民館祭りでの「詩吟」発表に向けて指導者による練習。 <御嵩町スポーツ少年団への参加促進（運動好きな子の育成と社会性の涵養）> ・「交流会」への参加児童を取りまとめる。 ・保護者向け「フェンシング体験会」参加案内文書の内容確認及び配布準備 ・10月14日 「少林寺拳法」体験会の実施
11月	<小規模特認校の推進> ・11月5日、12日、20日「学校見学会」 ・11月19日 文科省指定「少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業」調査研究報告会 <放課後子ども教室の設置・運営> ・11月 6日 Aチーム「英語教室」 Bチーム「太鼓教室」 ・11月20日 Aチーム「詩吟教室」 Bチーム「スポーツ教室」 ・11月25日 上之郷公民館祭りにて「詩吟」発表 ・教育委員会と来年度の日程を相談 ・11月の公民館祭りでの「詩吟」発表に向けて指導者による練習。 <御嵩町スポーツ少年団への参加促進（運動好きな子の育成と社会性の涵養）> ・11月 4日 「サッカー」体験会の実施 ・11月25日 「バレー」体験会の実施
12月	<小規模特認校の推進> ・小規模特認校制度を利用して通っている6年生の保護者に、上之郷中学校への入学に当たり、区域外申請の確認を行う <放課後子ども教室の設置・運営> ・12月11日 Aチーム「太鼓教室」 Bチーム「英語教室」 <御嵩町スポーツ少年団への参加促進（運動好きな子の育成と社会性の涵養）> ・保護者向け「フェンシング体験会」参加案内文書の配布 ・12月 2日 「野球」体験会の実施 ・12月15日 「スポ少野球交流会」に職員参加
1月	<小規模特認校の推進> ・小規模特認校制度を利用して通っている6年生の保護者に、上之郷中学校への入学に当たって、区域外申請の確認を行う ・1月30日 学校運営協議会 <放課後子ども教室の設置・運営> ・1月26日 新丸山ダムの行事に参加、「詩吟」発表 ・1月29日 Aチーム「スポーツ教室」 Bチーム「三味線教室」 ・1月の新丸山ダムの行事での「詩吟」発表に向けて指導者による練習。 <御嵩町スポーツ少年団への参加促進（運動好きな子の育成と社会性の涵養）> ・「フェンシング体験会」参加申込受付 ・1月25日 「スポ少バレー交流会」に職員参加 ・児童アンケート「土日等の過ごし方」について
2月	<小規模特認校の推進> ・2月22日 「6年生を送る会」地域の方への参観啓発、上之郷保育園職員参観 <放課後子ども教室の設置・運営> ・2月12日 Aチーム「英語」 Bチーム「スポーツ教室」 ・2月26日 Aチーム「詩吟」 Bチーム「英語」 <御嵩町スポーツ少年団への参加促進（運動好きな子の育成と社会性の涵養）> ・「フェンシング体験会」の実施

3月	<小規模特認校の推進> ・H31.3月現在の上之郷小学校区の0～6歳児の人数を把握し、次年度の応募学年と人数を確定する。
	<放課後子ども教室の設置・運営> ・3月5日 Aチーム「スポーツ教室」 Bチーム「詩吟」 ○放課後子ども教室で学んだことを地域で披露した児童の感想や保護者、指導者の感想を参考にして、次年度の活動計画に生かす。
	<御嵩町スポーツ少年団への参加促進（運動好きな子の育成と社会性の涵養）> ・3月3日 「スポ少サッカー交流会」に職員参加 ・児童アンケート「土日等の過ごし方」の結果から、次年度の手立て・取組について協議する。

8月7日(火)	第1回 少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進委員会開催
11月19日(月)	「少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業」調査研究報告会開催
1月30日(水)	第2回 少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進委員会開催
2月16日(土)	フェンシング体験会(朝日大学体育会フェンシング部)

6. 事業の成果

(1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

「少人数のメリットを最大化させる方策」にかかわる5つの研究課題

①学力向上 *算数における「考え方」「技能」「知識・理解」の着実な定着 CDT(H30.1実施)の結果、3つの観点のいずれかが全国と比べ、本人の正答が低かった児童(H29年度1年生～5年生の27名/64名)の割合を半減する取組を行う。 <成果> ○特に支援の必要な児童を抽出し、実態を分析し、手立てを考えて支援したことにより、計算大会等でも90点以上をとることができている。 ○低学年のたし算・ひき算・かけ算のがんばりカードを活用しての取組により、要支援の児童も意欲的に練習することができ、すらすらと唱えられるようになった。 ○今年度のCDT(H31.1実施)では、3つの観点のいずれかが全国と比べ、本人の正答が低かった児童の割合は36%(26名/72名)であり、昨年度の42%を6ポイント減少させることができた。 ○CDTテストでは、全国平均を上回った児童の割合は「考え方」71%、「技能」92%、「知識・理解」85%とそれぞれ良い結果を得られた。特に「技能」で高い結果が得られたことについては、日頃からの計算スキルの取組も成果として表れていると考えられる。 <課題> ●今後も基礎基本を確実に定着させるため、3つの観点のいずれかが全国正答率を下回る児童を減少させられるよう、実態把握と分析を確実にし、個別の支援の在り方を明確にしたTT指導や計算スキル、計算大会の取組を継続していく。 ●「考え方」を伸ばすために、なぜそうなるのかという理由を語らせることを大切にしながら、根拠を明確にして考えさせる指導に努める。 *「書く力」の着実な定着 CDTの「書く能力」において全国平均正答率を下回る児童の割合(26.3%)を半減する取組を行う。 <成果> ○CDTテスト(H31.1実施)では、「書く力」において全校平均を全国平均と比べると、4.2点上回ることができた。 ○国語の学びと土日の作文や他教科の学習と関連させた指導を継続してきたことで児童の力を伸ばすことができた。 ○毎月の職員会で、各学年の「書く指導」に関わる実践交流を行うことで、職員がお互いの指導から学びあうことで児童の指導に生かすことができた。 <課題> ●今後は、特に低学年・中学年における基礎基本の定着を図る指導を工夫し、全国正答率を下回る児童の割合を半減させる取組を進める。 ●職員会での「書く指導」の実践交流を継続する中で、「書く指導」学年別年間指導計画を見直していく。

②体力向上

* 総合評価の向上

スポーツテスト(H29.5実施)の総合評価がC～Eの児童(H29年度1年生～5年生の26名/64名)の記録が全国水準に近く取組を行う。

<成果>

○前回のスポーツテストの結果から学校課題、学年課題を分析し、手立てを工夫して取組を重ねたことにより、どの子ども自分の記録を伸ばすことができた。

<課題>

●総合評価C～Eの対象児童の実態把握に基づく具体的な手立てを明確にして実践を積み上げる。

●体育の授業の充実と補助運動の確かな取組を進めていく。

* 運動好きな子の育成

質問紙「体力に自信がもてない。」「家人からスポーツを推奨されない。」と回答する児童を半減する取組をする。

<成果>

○「体力に自信がある」児童の割合は、32%(H28)から40.8%(H30)へ増え、「体力に自信がない、どちらかといえば自信がない」児童の割合は、31%から22.6%に減少した。

○「家人からスポーツを推奨される」児童の割合は、36%(H28)から52.1%(H30)へ増え、「推奨されない、どちらかといえば推奨されない」児童の割り回りは、32%(H28)から22.5%(H30)に減少した。

○2回スポーツテストを実施し、結果の伸びを実感したことやなかよし競技会・全校遊びを通して楽しく体を動かすこと、さらには様々なスポーツとふれあう機会を作ることによって運動好きな児童を増やすことができた。

<課題>

●家庭教育学級と連携した運動好きな子の育成を図る取組を行う。

●スポーツ体験会への参加児童が増えるように運動への意欲をさらに高めたり、保護者の協力を呼びかけたりする。

●学級遊び、全校遊びを工夫するとともに学級の自治的活動の観点から、例えば健康班の取組を意図的に行っていく。

③歯科保健活動

* 歯と口の健康を守る児童の育成

H30.10に予定されている県歯科医師会主催の歯科保健優良校候補校に応募し、実地審査で小規模校の部で県一位をめざす取組をする。

* 昨年に引き続き、学校歯科医からの助言を受けた3点に留意する。

・栄養指導の充実と食育及びけがの予防に関する委員会活動の定期的な取組

・基礎体力と歯と食育を関連付けた定期的な講話の位置付け

・歯科保健の啓発を目的とした福祉施設との交流

<成果>

○歯科保健の取組では、全国一位(文部科学大臣賞)、県一位を受賞することができた。

○子ども達の歯みがきに対する意識を高めるとともに、保護者の意識も高め、保護者も巻き込んだ取組を行うことができた。

<課題>

●来年度以降、現在の取組を精選しつつ、歯科保健の意識を高めながら、DMFT指数0を維持していくよう取り組んでいくことが重要である。特に歯科衛生士との連携を密にするとともに、福祉施設との交流を継続し、地域への啓発に留意する。

④防災教育

* 自分の命は自分で守る子の育成

・予告なしに緊急地震速報を流した時に、慌てず・冷静に・真剣にシェイクアウトする児童の姿(登下校を含めた学校生活全般)を深化させる取組をする。

・学級活動や保健学習で「もし〇〇だったらどうしよう?」という課題の意味を理解し、正しく判断し、最善の方法を考えて行動できるための取組をする。

・H29.12減災力テストの平均点、児童(70.4点)・保護者(68.6点)を5点増やす。

<成果>

○毎月行っている「朝ぼうさい」の活動により、全校が防災の知識を高め、緊急地震速報が流れたときの対応も的確にできるようになりつつある。村岡先生から習ったシェイクアウトの体勢も意識してとっている。

○学級活動や保健学習で「もし〇〇だったらどうしよう?」という課題については、継続した指導により、危険を意識してセーフティゾーンはどこなのかを考えて行動することが身に付いてきた。

○4年生の減災力テストにおいては、6月は30.8点であったが、12月には70.8点と40ポイント上げることができた。

○4年生の「総合的な学習の時間」の年間計画を、防災学習を核にしたカリキュラムに変更したことで、4年生の防災に関する意識が大きく変わった。

○教育委員学校訪問、教育警察委員会訪問、授業参観等で防災はみがきを来客に説明したり、防災学習のまとめを発表したり、防災リーダーに指導をいただいたりしながら、防災意識を高めることができた。

○5年生の保健学習と絡めた「けがの手当て」の学習では、けがの状態によってとるべき行動やできる応急処置を真剣に学び、自分の生活に生かそうとする姿勢が見られた。

<課題>

●「朝ぼうさい」の内容の吟味・検討及び各学年の学級活動等のさらなる充実を図る。

●4年生を核とした防災教育を推進する。

●減災力テストの内容項目と関わらせた学校・PTA・地域での取組の在り方を検討・実践する。

⑤保・小・中の連携

* 保・小の連携

アプローチ・スタートカリキュラムを幼児期までに育てほしい「10の姿」に基づいて見直すとともに、共通課題に基づく実践交流の積み上げと園児を巻き込んだ意図的・系統的な生活単元を実践し小1プロブレムを解消する取組をする。

<成果>

○幼児期までに育てほしい10の姿から保小で大切にしている4つの姿を明確にしたアプローチ・スタートカリキュラムを作成するとともに、意図的に時間割を作成して取り組むことで、1年生がスムーズに学校生活に慣れ親しみ、小1プロブレムの解消に努めることができた。

○保小が連携することで、互いの取組を理解でき、良さを吸収しあって指導に生かすことができた。

<課題>

●仲間と関わる力(「協同性」「思いやりとルール理解」「自然への親しみと生命尊重」)を育てていくことを大事にしていく。また、道徳性をつける指導に重点をおく。

●自分の考えをよりよいものにする姿を大切に、深い学びができる子を育成したい。(「思考力の芽生え」)

* 小・中の連携

・学力(国語・算数)と体力について、小中9力年を見据えた系統的な指導と検証を行う。

・音楽に関わる児童の意識調査を継続的に実施し、指導改善することを通して、興味関心や意欲の向上を図っていく。

・楽譜を読む力を身に付けると共に、パート練習を子ども同士で行うことを大切に活動した活動を継続的に行うことで児童が声を重ねて合唱を楽しむ姿をめざす。

<成果>

○中学校が国語の授業での学びを生かした説明記事の投書を通して、小中連携した書く指導の継続した取組の大切さを共通理解した。

○兼務として、6年生の音楽と英語の授業に中学校の教員、また、中1の技術の授業に小学校の技術専科の教員が入り、専門性を生かした指導を行い、成果を挙げている。

○音楽の兼務により、楽譜をよく見て歌うことの大切さを教え、パート練習など児童が主体的に工夫しながら歌づくりができるようになった。音楽記号などより専門的な知識も得るなど、高い技術が身に付くだけでなく、中学校への接続もスムーズにできる。

○英語では、兼務が担任がT1として授業が進められるように指導したり、教材の使い方やゲームの取り入れ方などをアドバイザーすることで、担任のスキルアップにつながった。

○技術の兼務では、専門的な指導により実技の基礎基本を正しく身に付けさせることができた。卒業生との人間関係ができており、生徒の様子をつかむこともできるため、良好な指導ができている。

<課題>

●教科の専門性を生かした指導により、児童生徒に学ぶ楽しさを味わわせると共に中1ギャップを解消するためにも、引き続き6年生の音楽は中学校の専科教員、中1の技術は小学校の技術専科の教員が授業を兼務で行う。

●英語における読むこと、書くことに加わるTT指導の在り方を検討、実践を積み上げていく。

「少人数のデメリットを最小化させる方策」にかかわる3つの研究課題

①小規模特認校の推進

* 小規模特認校の理解・啓発と児童の募集及び円滑な就学手続きの在り方

・平成31年度、他の校区3名程度が制度を利用して通学することをめざす。

・乳幼児学級の学校見学会を実施し、本校の理解・啓発を行う。

<成果>

○御嵩町乳幼児学級に対して学校見学を呼びかけ、2回の見学会を設けることができ、今年度もたくさんの親子に授業の様子や学校の取組を知ってもらうことができた。

<課題>

●乳幼児学級の学校見学を恒例行事として確実に位置付けるとともに、見学内容の在り方を工夫し、本校の良さをアピールする。

●ホームページにおいて、本校の特色ある活動を定期的に紹介し、小規模特認校をPRする。

●小規模特認校制度の理解及び活用手順の職員への周知。

②放課後子ども教室の設置・運営

・詩吟や盆踊り、英語活動等の学びを地域で披露する姿

・「地域に学ぶ学校・地域を愛する学校・地域に働きかける学校」を推進する運営を行う。

<成果>

○上之郷公民館主催の「盆踊りのタベ」では、多くの小学生が主体的に参加し、楽しく踊る姿が多く見られ、祭りを盛り上げることに貢献することができた。

○「上之郷公民館まつり」「新丸山ダムの式典」で、詩吟を含め歌等の発表をし、地域の方から学び、地域に発信していくことができた。

○太鼓や三味線、詩吟などの日本の伝統文化や、ハンドベルやベアリングなどの目新しいもの、はやりのものにも触れることができ、様々な種目を体験することができたことは児童にとってはたいへんプラスである。

<課題>

●詩吟や盆踊り等の学びを地域に発信することを伝統としていく。

●新学習指導要領を踏まえ、外国語活動の内容を補完するような取組を進める。

③スポーツ少年団の参加率向上

*運動好きな子の育成と社会性の涵養

- ・スポーツ少年団の加入率25%及び運動する子の割合を現状の56%以上にする。
- ・スポーツ交流会や各体験活動への参加率35%をめざす。

<成果>

- スポーツ少年団の体験会の募集をし、多くの子が体験することができた。
- 3年間の取組により、8人がスポーツ少年団へ入団することができた。

<課題>

- スポーツ少年団主催の体験会の参加呼びかけを工夫する。
- 運動・習い事等、いずれも参加していない子どもの実態把握とともに、運動に親しむ子、社会性を培う観点で学校・家庭でできること、やれることを保護者と話し合い実践する。

(2) 成果物等

8つの研究課題に応じて設定した具体的目標を達成するため月毎に様々な取組を行った。その内容を冊子としてまとめたものを成果物として報告する。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

※成果物（冊子・パンフレット等の印刷物）については、10部添付すること。

※成果物（冊子・パンフレット等の印刷物）の電子媒体がある場合は、併せて送付すること。

(3) 今後の取組予定

「少人数のメリットを最大化させる方策」にかかわる5つの研究課題

①学力向上<算数>

*算数における「考え方」「技能」「知識・理解」の着実な定着

- ・今後も基礎基本を確実に定着させるため、3つの観点のいずれかが全国正答率を下回る児童を減少させられるよう、実態把握と分析を確実にし、個別の支援の在り方を明確にしたTT指導や計算スキル、計算大会の取組を継続していく。
- ・「考え方」を伸ばすために、なぜそうなるのかという理由を語らせることを大切にしながら、根拠を明確にして考えさせる指導に努める。

①学力向上<国語>

*「書く力」の着実な定着

- ・今後は、特に低学年・中学年における基礎基本の定着を図る指導を工夫し、全国正答率を下回る児童の割合を半減させる取組を進める。
- ・職員会での「書く指導」の実践交流を継続する中で、「書く指導」学年別年間指導計画を見直していく。

②体力向上

*総合評価の向上

- ・総合評価C～Eの対象児童の実態把握に基づく具体的な手立てを明確にして実践を積み上げる。
- ・体育の授業の充実と補助運動の確かな取組を進めていく。

*運動好きな子の育成

- ・家庭教育学級と連携した運動好きな子の育成を図る取組を行う。
- ・スポーツ体験会への参加児童が増えるように運動への意欲をさらに高めたり、保護者の協力を呼びかけたりする。
- ・学級遊び、全校遊びを工夫するとともに学級の自治的活動の観点から、例えば健康班の取組を意図的に行っていく。

③歯科保健活動

*歯と口の健康を守る児童の育成

- ・来年度以降、現在の取組を精選しつつ、歯科保健の意識を高めながら、DMFT指数0を維持していくよう取り組んでいくことが重要である。特に歯科衛生士との連携を密にするとともに、福祉施設との交流を継続し、地域への啓発に留意する。

④防災教育

*自分の命は自分で守る子の育成

- ・「朝ぼうさい」の内容の吟味・検討及び各学年の学級活動等のさらなる充実を図る。
- ・4年生を核とした防災教育を推進する。
- ・減災力テストの内容項目と関わらせた学校・PTA・地域での取組の在り方を検討・実践する。

⑤保・小・中の連携

*保・小の連携

- ・仲間と関わる力（「協同性」「思いやりとルール理解」「自然への親しみと生命尊重」）を育てていくことを大事にしていく。また、道徳性をつける指導に重点をおく。
- ・自分の考えをよりよいものにする姿を大切に、深い学びができる子を育成したい。（「思考力の芽生え」）

*小・中の連携

- ・教科の専門性を生かした指導により、児童生徒に学ぶ楽しさを味わわせると共に中1ギャップを解消するためにも、6年生の音楽は中学校の専科教員、中1の技術は小学校の技術専科教員が授業を兼務で行う。
- ・英語における読むこと、書くことに加わるTT指導の在り方を検討、実践を積み上げていく。

「少人数のデメリットを最小化させる方策」にかかわる 3 つの研究課題

①小規模特認校の推進

*小規模特認校の理解・啓発と児童の募集及び円滑な就学手続きの在り方

- ・平成 3 1 年度、他の校区3名程度が制度を利用して通学することをめざす。
- ・乳幼児学級の学校見学を恒例行事として確実に位置付けるとともに、見学内容の在り方を工夫し、本校の良さをアピールする。
- ・ホームページにおいて、本校の特色ある活動を定期的に紹介し、小規模特認校を P R する。
- ・小規模特認校制度の理解及び活用手順の職員への周知。

②放課後子ども教室の設置・運営

- ・詩吟や盆踊り、英語活動等の学びを地域で披露する姿
- ・「地域に学ぶ学校・地域を愛する学校・地域に働きかける学校」を推進する運営を行う。
- ・詩吟や盆踊り等の学びを地域に発信することを伝統としていく。
- ・新学習指導要領を踏まえ、外国語活動の内容を補完するような取組を進める。

③スポーツ少年団の参加率向上

*運動好きな子の育成と社会性の涵養

- ・スポーツ少年団の加入率25%及び運動する子の割合を現状の56%以上にする。
- ・スポーツ交流会や各体験活動への参加率35%をめざす。
- ・スポーツ少年団主催の体験会の参加呼びかけを工夫する。
- ・運動・習い事等、いずれも参加していない子どもの実態把握とともに、運動に親しむ子、社会性を培う観点で学校・家庭でできること、やれることを保護者と話し合い実践する。